

HIRANO TECSEED Co.,Ltd.



# 第91期 株主通信

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

証券コード | 6245



株式会社 ヒラノテクシード

# 「塗工」「乾燥」「制御」の技術を融合させ、幅広い

自動車、エレクトロニクス製品、エネルギー関連、医療製品、建材から日用品まで——私たちヒラノグループは、多彩な製品の基材を製造する様々な装置をお届けするメーカーです。創業以来、培ってきた「熱と風の技術」（乾燥技術）をはじめ、塗工・ラミネーティング・成膜・成形等の技術、走行技術を融合させ、高精度でクリーンなものづくりに貢献する技術開発を進めてまいりました。刻々と変化するお客さまのニーズとのマッチングを図るために、お客さまとの技術交流を通じて商品開発のご提案を行う「テクニカム」という仕組みも整えております。これからも、グループ企業であるヒラノ技研工業株式会社、株式会社ヒラノエンテック、ヒラノ光音株式会社とのシナジーを活かしながら、国内はもちろん世界中のお客さまのニーズに最先端の技術とクオリティで応え続けてまいります。

## 代表的な基盤技術

（ウエット&ドライ）  
塗工技術

（熱と風）  
乾燥技術

装置制御技術

## 技術開発

お客様のニーズとのマッチングを図る  
「テクニカム」

## ヒラノテクシードの歩み

1935年 6月

熱交換機、送排風機の専門メーカーとして、現在の大阪市平野区に平野金属合資会社を創業。  
繊維製品の乾燥機械を主力製品とし、業績を伸ばす。

1957年 3月

株式会社化し、平野金属株式会社となる。

1962年 4月

大阪証券取引所（現 東京証券取引所）市場第二部上場。

1971年 12月

フィルムなど繊維以外の分野へ進出。

1973年 6月

奈良工場竣工。  
「ヒラノテクニカム」（研究及び実験施設）を設置。

# 産業に欠かせない製造装置をお届けしています。

## 主要製品

### 塗工機械

#### 対象基材

光学機能性フィルム  
リチウムイオン電池電極  
タッチパネル用ハードコートフィルム  
光学用粘着(OCA)テープ  
FPC用電磁波シールド材  
医療用 経皮吸収体 など



### 化工機械

#### 対象基材

ポリイミドフィルム  
ポリカーボネートフィルム  
チップオンフィルム  
セラミックシート  
不織布  
炭素繊維  
タッチパネル用ITOフィルム など



## 多彩な対応分野

エレクトロニクス

自動車

IT・通信・半導体

エネルギー

医療

etc...

1978年 6月

ヒラノ技研工業株式会社設立。

1987年 6月

株式会社ヒラノエンテックを設立。

10月

光音電気株式会社(現・ヒラノ光音株式会社)を100%出資子会社とする。

1989年 1月

株式会社ヒラノテクシードへ社名変更。

1998年 4月

ISO9001 認証取得。

2014年 3月

ヒラノ光音株式会社本社・工場新築移転。

# 「Wet & Dryのコーティング装置」で世界トップクラス企業価値の一層の向上をめざします。



取締役社長  
おかだ かおる  
岡田 薫

1958年、大阪府生まれ。  
1981年、当社入社。取締役設計部長を経て、  
2015年6月 取締役社長に就任。

当連結会計年度におけるわが国経済は、前半は消費増税に伴う駆け込み需要の反動減もありましたが、政府の各種経済政策等を背景に内需が下支えされ、雇用情勢にも改善が見られました。

また、為替が円安基調で推移したことから、輸出関連企業を中心に企業業績が改善基調となりました。

海外におきましては、米国経済は雇用環境や企業業績の改善を背景に個人消費が増加するなど景気回復が堅調となり、新興国経済は製造業において景気が一時的に回復したものの景況感は全体的に鈍化傾向となりました。

このような状況のもと当社グループはお客様に価値ある技術を創出し続けるべく、徹底した品質の管理のもと「構造の変化に迅速に対応」をスローガンにコスト・技術・ものづくりにおいて改革を推し進めてまいりました。

その結果、売上高は14,514百万円(前期比49.1%減)となり、利益面では経常利益645百万円(前期比82.3%減)、当期純利益は445百万円(前期比79.0%減)となりました。

受注残高につきましては、12,234百万円(前期末比2.8%増)となりました。

## 連結業績ハイライト

### 売上高



### 経常利益



# の企業として、

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。  
この度、岡田 薫が新たに代表取締役社長に就任いたしました。

### 技術力を底上げし付加価値の高い提案をしてまいります。

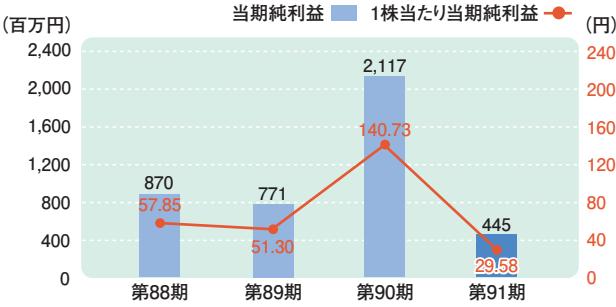
私は株式会社ヒラノテクシードの前身である平野金属株式会社に入社後、設計部門に所属し、設計部長を経て、現職に就きました。技術開発力を向上させることが、27年ぶりに技術出身者として社長に就任した私の使命です。

国内景気は回復傾向にあるとはいえ、2014年度(第91期)は電子材料分野の製造装置は厳しい受注環境が続いていましたが、ようやく新規設備投資が回復してきました。この環境下においても「重点市場でのシェア確保に軸足を置いた営業や技術開発」という従来の戦略は効果を発揮します。よってこれを踏襲し、更にものづくりにおける技術力の底上げを図ることで、お客さまに対してこれまで以上に付加価値の高い提案を心がけていきたいと考えております。

つきましては、今後とも厚いご支持を賜りますよう心からお願い申し上げます。



### 当期純利益／1株当たり当期純利益



### 自己資本／ROE



2015年6月に代表取締役社長に就任した岡田薫が、当連結会計年度の業績と今後の事業展開について、株主の皆さまにお伝えいたします。

### Q 2014年度(第91期)の市場環境と業績はいかがでしたか？

**A** 特需の反動と設備投資を抑える動きによる需要の落ち込みにより厳しい年度でしたが受注には回復の兆しが見え始めました。

当連結会計年度の事業環境は厳しいものでした。特に2013年度(第90期)には、タッチパネル用ITOフィルム製造に用いられる真空スパッタ装置の特需がありましたが、2014年度はそれが一巡し大きく落ち込みました。受注環境も厳しい状況でしたが、期の後半からは新規設備投資の引き合いが増加傾向にあるのに加え、低迷していた二次電池用の電極塗工装置や光学機能性フィルム装置の注文が着実に戻ってきつつあります。

### Q 長年、設計業務を通じてものづくりに携わった立場として、会社の長所、強みをどのように判断していますか？

**A** 培ってきた固有の技術と、それを活かす商品開発及び製造の底力が強みです。

当社グループは時代の変遷を受けて、技術革新を通して力強く発展してきた点が強みの一つです。創業当初は熱と風の



技術を蓄積し、乾燥機の専門メーカーへと成長。ここでは繊維産業の隆盛に対応し、技術を大きく伸ばしました。

その後、乾燥技術にコーティング技術を加え磨き上げたことで、現在の主な市場であるディスプレイや電子材料、二次電池・燃料電池、一般粘着、メディカル、カーボンファイバー・ガラスクロスなどの関連企業のお客さまに、付加価値の高い製造機械を提供するメーカーへと発展したのです。

当社グループの技術の核となるのは、「ロール to ロールプロセス」による生産効率の大幅な向上を軸とした走行技術、そして乾燥及びコーティング技術の融合です。加えて、製造技術も含めたものづくりの総合技術力も見逃せません。ここでは社員一人ひとりのモチベーションの高さや、各部署間での連携の良さが強みでもあります。この優位性を活かすことで、今後どんな環境の変化に対しても迅速かつ的確に対応可能な体制を築き上げることができると確信しています。

### Q 新体制として取り組むべき課題は何でしょうか？

**A** 環境の変化により強い経営基盤の確立をめざします。

今、市場環境が目まぐるしく変わる中で、変化に即応できる経営基盤の確立が欠かせません。

そのためには、まず販売力の強化が重要です。加速するグローバル展開を踏まえ、国内にとどまらず、海外市場の開拓が求められています。中国市場の開拓をはじめとして、世界におけるヒラノブランドの浸透に努めます。

次に、新技術開発のスピード化です。開発のテーマを明確にし、お客さまのご要望によりスピーディーに応えることが欠かせません。そのために昨年からはグループ会社間での技術交流と情報共有を進めており、これを加速することでグループのシナジーを発揮した経営で競争力を高めてまいります。

さらにはものづくりの改革が重要ととらえています。近年、短

納期及び高精度に対するニーズがますます高まっております。今後は製品の内製化に注力し、コストダウンと付加価値向上を推し進めることで、生産体制の抜本的な見直しに取り組んでまいります。

**Q** 2015年度(第92期)の業績見込み及び配当政策についてお考えをお聞かせください。

**A** 市場の回復傾向を受けて、増収増益を見込んでおります。また、配当は企業収益状況に応じつつ安定的な配当を基本としております。

おかげさまで、低迷していた電子部材関連の成膜装置が回復基調にあるのに加え、光学機能フィルム及びリチウムイオン電池などの製造装置の需要が拡大傾向にあります。新規の設備投資が増えることで、増収とともに増益を見込んでおります。

当社は株主さまへの配当金は企業の収益状況を考慮しつつ安定的な配当の維持を基本としております。2015年度の配当金につきましては、増益の見込みに対応して普通配当を年2円増配して12円とそれに加えて当社が本年6月1日で創立80周年を迎えたことから、中間配当に2円の記念配当を実施させていただく予定です。これにより2015年度の配当金は年間14円とさせていただく予定です。

**Q** 中長期での事業の可能性について、どのようにお考えでしょうか？

**A** 画期的な「ウェット&ドライ」のコーティング技術に注目しています。

厳しい市場環境の中でグループが一体となって、新技術、新商品の開発に取り組んできました。これが今後、大きなビジネスチャンスを生み出すようとしています。

その一つが世界でも類を見ない「ウェット&ドライ」のコーティング技術です。これはドライコーティングを手がける子会社、ヒラノ光音株式会社との技術融合によるもので、ウェットコーテ



ィングとドライコーティングという異なる二つの加工を一つの成膜装置で行うことで、今後の薄膜コーティングの可能性を大きく広げる画期的な技術といえるでしょう。

今後、こうした新技術を通じて商品開発力の強化を図っていく考えです。

**Q** 株主の皆さまに向けて、今後の抱負をお願いします。

**A** 末永い繁栄を通じて、お客さまに貢献できる企業をめざしてまいります。

経営者としてめざしたいのは、ヒラノテクシードをこの先、何百年にわたって繁栄を続けることのできる会社とすることです。そのためには、時代が移り変わる中で、常に変革を続ける組織であることが欠かせません。

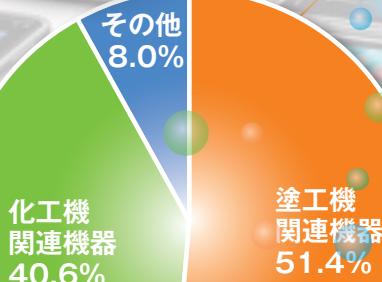
弊社はこれまで世の中のないものを生み出すことで、お客さまのご要望に真摯に応えてまいりました。その社風を今後も継承し、部署を問わず仕事の中で創造性を発揮できる会社をめざしてまいります。それにより、企業価値のさらなる向上を図り、お客さまから必要とされ続ける会社として経営に邁進してまいります。

つきましては、株主の皆さまの変わらぬご愛顧を引き続き賜りますようお願い申し上げます。

# セグメント別状況

## 塗工機関連機器

各種コーティング、ラミネーティング装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置



## 化工機関連機器

各種成膜装置、不織布・高機能繊維製造装置、フラットパネル塗布乾燥装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置



# ヒラノテグシード 80年の歩み

当社は、おかげさまで2015年6月1日に創立80周年を迎えました。  
今も受け継がれる“熱と風”の技術。そこに塗工技術・制御技術が加わり新たなステージへと進化を遂げてきました。これからも時代の最先端を行く高精度な機械を開発し、社会に貢献してまいります。



80th  
Anniversary

2015年

1991年～  
新市場開発が行われ、  
ロングセラー商品が拡大  
炭素繊維関連機械  
電子セラミックの成膜機械  
コンマコーター・リップコーター

1989年  
株式会社  
ヒラノテグシード  
へ社名変更

1998年  
ISO9001 認証取得  
2013年  
塗装工場稼働  
2014年  
ヒラノ光音株式会社  
本社・工場新築移転

1963年～  
染色仕上げ機械を開発し、発展  
サクシヨンドラムドライヤー

1973年  
奈良工場竣工  
「ヒラノテクニカム」  
を設置

1978年  
ヒラノ技研工業株式会社設立  
1987年  
株式会社ヒラノエンテック設立  
光音電気株式会社（現・ヒラノ光音  
株式会社）を100%出資子会社とする

1971年  
フィルムなど繊維以外の  
分野へ進出

1950年～1956年  
乾燥機の技術開発が行われる  
幅出しセンター  
ロングループドライヤー  
ショートループドライヤー  
ベーキングマシン

1962年  
大阪証券取引所  
（現 東京証券取引所）  
市場第二部上場

1935年  
平野金属合資会社  
創業

1957年  
平野金属株式会社となる

熱交換器に使用される  
エロフィンチューブの  
製造・開発



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第90期	第91期
	(平成26年3月31日現在)	(平成27年3月31日現在)
<b>資産の部</b>	<b>29,313</b>	<b>25,834</b>
流動資産	23,051	19,353
固定資産	6,261	6,481
有形固定資産	3,687	3,454
無形固定資産	151	110
投資その他の資産	2,422	2,916
資産合計	29,313	25,834
<b>負債の部</b>	<b>9,618</b>	<b>5,713</b>
流動負債	8,206	4,427
固定負債	1,412	1,286
<b>純資産の部</b>	<b>19,694</b>	<b>20,121</b>
株主資本	19,514	19,792
資本金	1,847	1,847
資本剰余金	1,339	1,339
利益剰余金	16,733	17,012
自己株式	△ 407	△ 407
その他の包括利益累計額	180	329
その他有価証券評価差額金	313	470
退職給付に係る調整累計額	△ 132	△ 141
負債純資産合計	29,313	25,834

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第90期	第91期
	(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)	(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,716	△ 2,356
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 343	△ 1,292
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 54	△ 375
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	11
現金及び現金同等物の増減額	3,318	△ 4,012
現金及び現金同等物の期首残高	10,215	13,533
現金及び現金同等物の期末残高	13,533	9,521

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第90期	第91期
	(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)	(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)
売上高	28,504	14,514
売上原価	23,271	12,426
売上総利益	5,233	2,087
販売費及び一般管理費	1,665	1,533
営業利益	3,568	553
営業外収益	105	111
営業外費用	26	19
経常利益	3,647	645
特別利益	50	113
税金等調整前当期純利益	3,697	758
法人税・住民税及び事業税	1,536	237
法人税等調整額	43	76
少数株主損益調整前当期純利益	2,117	445
当期純利益	2,117	445

### 配当のお知らせ

当期の利益配当金につきましては、1株当たり普通配当金5円（中間配当金5円と合わせて、年間配当金は1株当たり10円）とさせていただきます。

# 会社の概要

(平成27年3月31日現在)

社名	 株式会社 ヒラノテクシード
英文社名	HIRANO TECSEED Co.,Ltd.
創業	昭和10年6月1日
設立	昭和24年7月25日
資本金	1,847,821,888円
従業員数	237名
事業所 本社	〒636-0051 奈良県北葛城郡河合町大字川合101番地の1 電話 (0745) 57-0681
東京支店	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-8-16 (千城ビル9F) 電話 (03) 3242-5441

## 役員

取締役社長 (代表取締役)	松葉茂美
常務取締役	定安一男
取締役相談役	三浦日出男
取締役	安居宗則
取締役	金子二雄
取締役	岡田薫
常勤監査役	田澤憲二
監査役	高谷和光
監査役	田中寛治郎

(注) 監査役高谷和光氏並びに田中寛治郎氏は、社外監査役であります。

## 子会社

ヒラノ技研工業株式会社	(産業用機械器具製造)
株式会社ヒラノエンテック	(繊維機械等部品製造)
ヒラノ光音株式会社	(真空装置等製造)

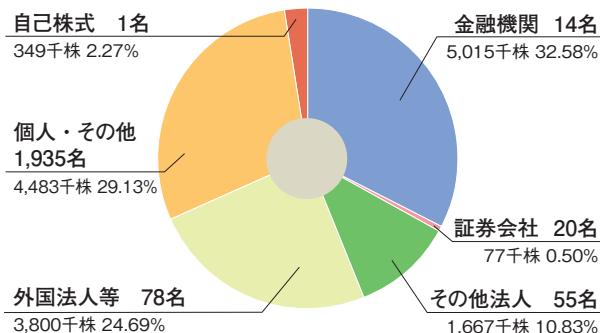
## 株式の状況

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	15,394,379株
株主数	2,103名
大株主	

株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
	千株	%
明治安田生命保険相互会社	1,450	9.64
ヒラノ会	1,301	8.65
伊藤忠商事株式会社	850	5.65
THE BANK OF NEW YORK, NON-TREATY JASDEC ACCOUNT	816	5.43
株式会社三菱東京UFJ銀行	737	4.90
株式会社りそな銀行	731	4.86
STATE STREET BANK CLIENT OMNIBUS OM04	635	4.23
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE NT MEL AUSTRALIAN TREATY LENDING CLIENTS ACCOUNT	379	2.52
株式会社みずほ銀行	300	1.99
株式会社南都銀行	300	1.99

(注) 1. 上記の他、自己株式数349,902株を保有しております。  
2. 持株比率は自己株式数を控除して計算しております。

## 所有者別株式分布状況



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部
証券コード	6245
公告掲載方法	大阪市において発行する日本経済新聞
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問合せ先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 (通話料無料) : 0120-094-777

※株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話(自動音声案内)及びインターネットでも24時間承っております。

電話 (通話料無料) : 0120-244-479 (証券代行部)

0120-684-479 (大阪証券代行部)

インターネットホームページ : <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

ヒラノテクシード ホームページ

<http://www.hirano-tec.co.jp/>

ホームページで当社の事業活動、商品の案内、投資家情報などに関する詳しい情報をご覧ください。ぜひご活用ください。



この冊子は、環境に配慮し、植物油インキを使用しております。